



「雲海の上の旅人」

SSH 推進部長（国際理学科長） 熊谷 洋介

本校のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業は、今年度で7年目のシーズンを迎えました。SSHは一度指定を受ければ半永久的に継続できる制度ではなく、1期5年を一区切りとして、その期間ごとに研究開発課題を設定し、学校全体で「探究」に取り組みます。そして期を重ねるごとに、求められる内容は少しずつ高度になっていきます。7年という時間は、長いとも短いとも言えるでしょう。しかし、試行錯誤を重ねるには、十分な年月だったように思います。黎明期と比べるとその姿は大きく変わりましたが、本校のSSHが一貫して大切にしてきたのは、「生徒自身の興味・関心に基づいた探究活動」です。人から与えられた課題ではなく、自分の内側から湧き上がる感情を出発点にしてほしい——その想いが根底にあります。

今年度も各学年でガイダンスが行われました。学年によって実践内容は異なりますが、共通して示されていたキーワードは「ワクワク」という言葉でした。つかみどころがなく、非常に曖昧な言葉ではありますが、探究に限らず、学問を志す人のそばには、いつもこの感覚が寄り添っているように思います。

「なんとなく気になる」「もう少し近づいてみたい」

そんな“もう少し”を大切にすることこそが探究であり、思い返してみれば、私たちが日々行っている授業そのものではないでしょうか。

最後に、私の好きな一枚の絵画について書いてみたいと思います。19世紀ドイツの画家、カスパー・ダーヴィド・フリードリヒによる「雲海の上の旅人」です。

絵の中央には、山の頂に立つ旅人の後ろ姿が描かれています。彼はここまで登ってきました。足には疲労が残つつも、足元はすでに安定しています。しかし、私たちはその旅人の顔を見ることができません。達成感に満ちた表情なのか、それとも雲海に遮られ、虚ろな思いを抱えているのか。あるいは、まったく別の感情かもしれません。その答えを知っているのは、雲海の上に立つ本人だけです。

私たちはつい、努力すれば必ず何かが得られると錯覚してしまいます。そのような分野があることも確かですが、少なくとも探究活動は、そう単純ではありません。山の頂に立ったとき、壮大な景色が広がるとは限りません。雲海に覆われ、思い描いていたものとは異なる光景が目の前にあるかもしれませんし、雲の向こうに次なる山が姿を現すこともあるでしょう。どのような景色に出会うのかは、実際にその頂に立ってみなければ分からないのです。挑戦の先に必ず答えや成果が待っているとは限りません。それでも一歩を踏み出すことが、新たな問いと次の挑戦につながっていきます。さて、新学期のスタートです。みなさんの挑戦を楽しみに待っています。



姫西SSH通信とは

SSH 関係の情報を発信する通信です。各学年で行われていることや、コンクール、発表会の様子などを掲載しています。長期休みを除いた期間で定期的に発行している通常号のほかに、発表会やコンクールに焦点を当てた特別号も発行しています。本通信は、クラス掲示と姫路西高校 HP の「SSH の取り組み」ページに掲載されていくのでぜひご覧ください。

SSH年間スケジュール

	1年生	2年生
4月	・ガイダンス ・ひとはく,れきはく探検 事前指導	・年間計画の確認 ・詳細な実験計画書の作成
5月	・実験観察講座(国際理学科) ・20日:「ひとはく探検」 ・27日:「れきはく探検」	・22日:「実験・分析計画発表会」 ・実験計画の見直し/実験/分析 ・フィールドワーク
6月	・AI リテラシー講座 ・ひとはく,れきはく探検 事後指導	
7月		・中間成果発表会①
8月	～ 夏休み ～	
9月	・校外研修(国際理学科) ・基礎講座「統計学/論文」(普通科)	・探究計画書/問いの見直し
10月	・基礎講座「統計学」(国際理学科)	・中間成果発表会② ・実験/分析/考察
11月	・探究活動「研究テーマ」 ・探究活動「リサーチクエスチョン/仮説/研究方法」	・ポスター制作
12月	18日:課題研究成果発表会「ポスター発表」(1年生は見学)	
1月	・研究計画発表会①(国際理学科)	・発表会振り返り,実験/分析/考察
2月	30日:SSH 成果発表会「スライド発表」(1年生は見学)	
2月	・研究計画発表会(普通科)	・論文作成(個人で制作)
3月	・研究計画発表会②(国際理学科)	・論文作成(チームで1つにまとめる)

3年生

4月	・英語プレゼンテーション作成/日本語論文作成
5月	12日:英語プレゼンテーション講座、個別指導
6月	・英語プレゼンテーション作成/日本語論文作成
7月	・未来キャリアレポート
8月	～ 夏休み ～
9月	・探究を深める主体的な取り組み(～12月)